

6. モニタリング計画

魚道が目的どおりの機能を果たしているか、また改善の余地があるか等を把握していくためにモニタリングを実施する。調査に当たってのポイントを表6-1に、魚類調査地点を図6-1に示す。

表6-1 主な調査項目と調査のポイント

主な調査項目		調査のポイント																				
魚の 生息	調査時期	<ul style="list-style-type: none"> ・対象魚種の生活史に注目した調査。 ・春、夏、秋の年間3回程度は最低必要。 																				
	調査継続期間	例えばサクラマスの場合は1世代3年であり、複数世代が把握できる継続年数が必要。																				
	調査地点	<table border="1"> <thead> <tr> <th>調査地点(案)</th> <th>工事中</th> <th>完成後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下流河川</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>新水路内</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>新水路魚道(堰横魚道、高水敷魚道)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>既設千代田堰堤魚道</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上流河川</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			調査地点(案)	工事中	完成後	下流河川			新水路内			新水路魚道(堰横魚道、高水敷魚道)			既設千代田堰堤魚道			上流河川		
	調査地点(案)	工事中	完成後																			
下流河川																						
新水路内																						
新水路魚道(堰横魚道、高水敷魚道)																						
既設千代田堰堤魚道																						
上流河川																						
その他	魚道流量・呼水流量と魚の遡上状況の把握																					
鳥対策の状況	高水敷魚道・新水路のアオサギ飛来状況の把握(目視観察)																					
河床・河岸状況	高水敷魚道の蛇行、瀬、淵、植生の状況把握																					
流路維持管理	高水敷魚道・新水路の堆砂状況、浸筋の状況等																					
水質調査	調査地点：新水路下流部の本川背水区間 堰上流部の湛水区間 調査項目：水温、濁度、DO、クロロフィルa 生活環境項目(pH、BOD、COD、SS、大腸菌群数 T-N、T-P) フェオフィチン、無機態リン、無機態窒素																					

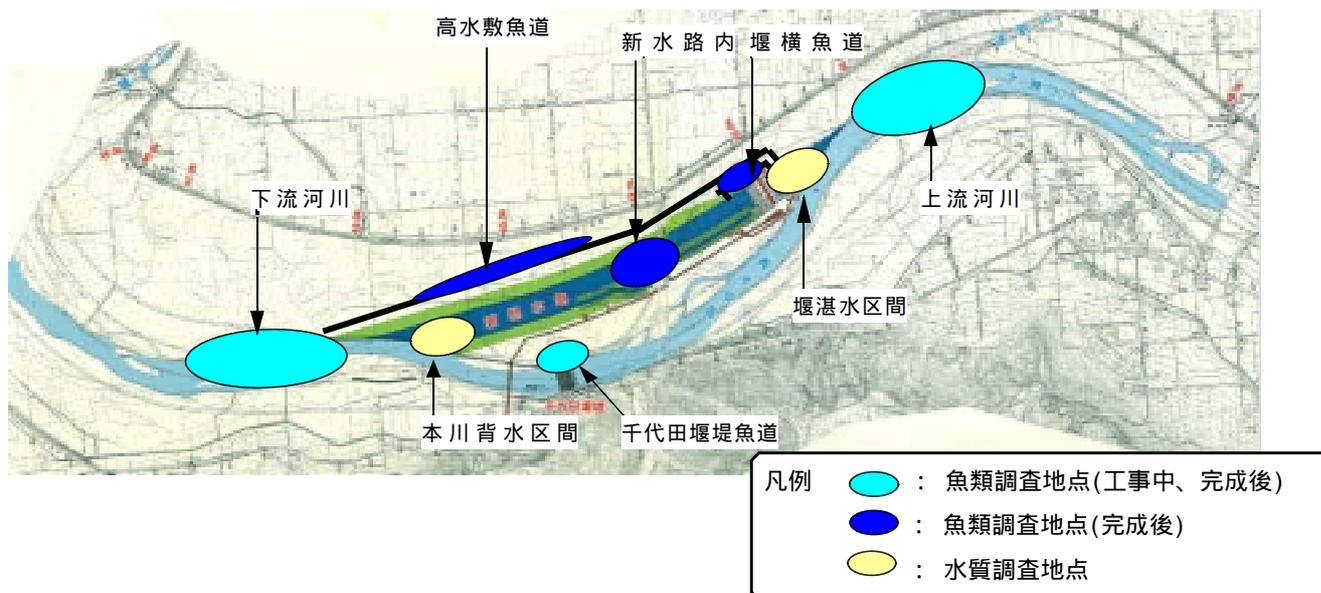


図6-1 モニタリング調査地点(案)